

平成30年度 大月市学校教育の指針

「新やまなしの教育振興プラン（平成26～30年度）」では、「未来を拓く『やまなし』人づくり」を基本理念として掲げ「夢と希望に向かって自ら学び、考え、行動する『たくましい力』を育てる」「他者を思いやり社会の絆を深める『しなやかな心』を育む」の二つの基本目標を達成するための取組を推進していくこととしています。

本市教育委員会においては、この振興プランに基づいて策定された平成30年度山梨県学校教育指導重点と、大月市が平成27年6月に策定した「大月市の教育の大綱（大月市第2期教育振興基本計画）」を踏まえ、下記に掲げる事項を今年度の教育指針としました。

つきましては、校長のリーダーシップとマネジメントの下、児童・生徒一人ひとりにきめ細かな指導を実践し、学校教育のさらなる充実と発展にご尽力をお願いします。

記

1 ふるさと教育の推進

- ①豊かな自然環境・人的環境を活かし、体験活動を位置づけた教育課程の編成と実践に努め、感性豊かな子どもの育成に努める。
- ②地域の歴史・伝統・文化・産業・自然について、地域の方々とのふれあいを通して学び、個性を伸ばし豊かな人間性と郷土を大切にする心の育成に努める。
- ③市独自の教育施策を通して、望ましい生活習慣や学習への前向きな姿勢を身に付けたり、確かな職業観や人間関係の構築力を育てたりする中で、夢と希望をもった世界に羽ばたく子どもの育成に努める。
- ④地域社会と連携したボランティア活動に取り組み、活動を通して広い視野と豊かな人間性や社会性を持つ子どもの育成に努める。

2 生きる力を育む適切な教育課程の編成と実施（カリキュラムマネジメントの充実）

- ①小中連携に確実に取り組み、子どもの情報を共有するとともに、教育課程・指導内容・指導方法について組織的に研究し、子どもの生活力・学力の育成に努める。
- ②新学習指導要領への移行期にあたり、小学校外国語科やプログラミング教育を含むICT教育について、組織的・実践的に研究し、よりよい授業づくりに努める。
- ③中学校では、キャリア教育の「ねらい」を踏まえた上で、体験活動を大切にし、確かな職業観や主体的に進路を選択する能力や態度の育成に努める。

3 確かな学力と自立を育む指導

- ①主体的・対話的で深い学びの実現に向け校内研究等で取り組むとともに「やまなしスタンダード」の実践を進め、教師一人一人の指導力及び学校全体の教育力向上を図り、基礎基本の定着と活用力、学びに向かう力も含めた学力の育成に努める。

- ②特別支援教育の充実に向け、教員間で情報を共有し、必要な知識や配慮等について研修等を通して学び、個に応じた適切な支援に努める。
- ③学力学習状況調査の結果を分析考察し、子どもの実態把握に努め、個に応じた適切な支援とともに、日常の授業改善に結びつけ、さらなる学力の育成に努める。
- ④家庭学習実践事例集を参考に、小中の教員間で共通理解を図りながら、子どもが目標を持ち自ら課題解決に取り組むよう、家庭学習の定着と充実に努める。

4 豊かな人間性を育む心の育成の推進

- ①子どもが自己存在感を感じる居場所づくりや、望ましい集団づくりを進め、いじめや不登校、暴力行為等のない楽しい学校生活の実現に努める。
- ②子ども、学校及び地域の実態を踏まえ、学校として育てようとする子どもの姿を明らかにし、「特別の教科道徳」をはじめ全教育活動で豊かな人間性の育成に努める。
- ③幼保小中高の連携を進め、子どもたちの情報を共有し、切れ目のない支援を通して、小1プロブレムや中1ギャップ等の学校不適應の解消に努める。
- ④やまびこ支援学校との「交流学习・交流活動」の機会を積極的に設け、障害のある子どもたちへの理解と共育・共生の心の育成に努める。

5 健康・安全に関する資質や能力の育成

- ①自校の現状を適切に把握し、学校全体で課題を共有し、小学校にあっては運動の日常化を、中学校にあっては体力の向上を図るため、運動時間の確保に努める。
- ②学校教育活動を通して、健康教育の着実な推進を図るとともに、健康・安全（生活・交通・災害・その他世界情勢等）及び食に関する教育の充実に努める。
- ③情報化社会の急速な進展の中で、いじめやネット犯罪の危険やネット依存による生活崩壊も危惧される中、学校・家庭・地域が連携して情報教育の推進に努める。

6 家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりの推進

- ①学校評価では、成果と課題・課題に対する改善策を、PTA 総会、学校だより、学校 HP 等で、家庭や地域に公表し PDCA サイクルで適切な評価と改善に努める。
- ②初狩小学校のコミュニティスクールの成果を共有し、保護者や地域が、学校教育活動に組織的・継続的に参加できる、開かれた学校づくりの推進に努める。
- ③教員の多忙化改善に取り組む中で、地域や家庭と連携し、地域や家庭の理解と協力を得る中で、子どもと向き合う時間の創出に努める。